

個人投資家向け 会社説明資料

証券コード 8137
サンワテクノス株式会社
代表取締役会長 田中裕之

2023年11月19日（日）
大和コンファレンスホール
<https://www.sunwa.co.jp/>



代表取締役会長

たなか ひろゆき

田中 裕之

1957年生まれ（66歳）

1979年 中央大学 理工学部 卒

サンワテクノス株式会社入社

2006年 取締役

2008年 常務取締役

2014年 専務取締役

2017年 代表取締役社長

2022年 代表取締役会長兼社長

2023年 代表取締役会長

- 会社案内
- 2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント

- 会社案内
- 2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント

会社案内 “世界中の技術をつなぐ独立系技術商社”

2023年3月期

設立 : 1949年11月4日

拠点 : 国内 : 30拠点、海外 : 33拠点

従業員数 : 連結1,094名 単体625名 (2023年9月末日)

売上高 : 1,810億円

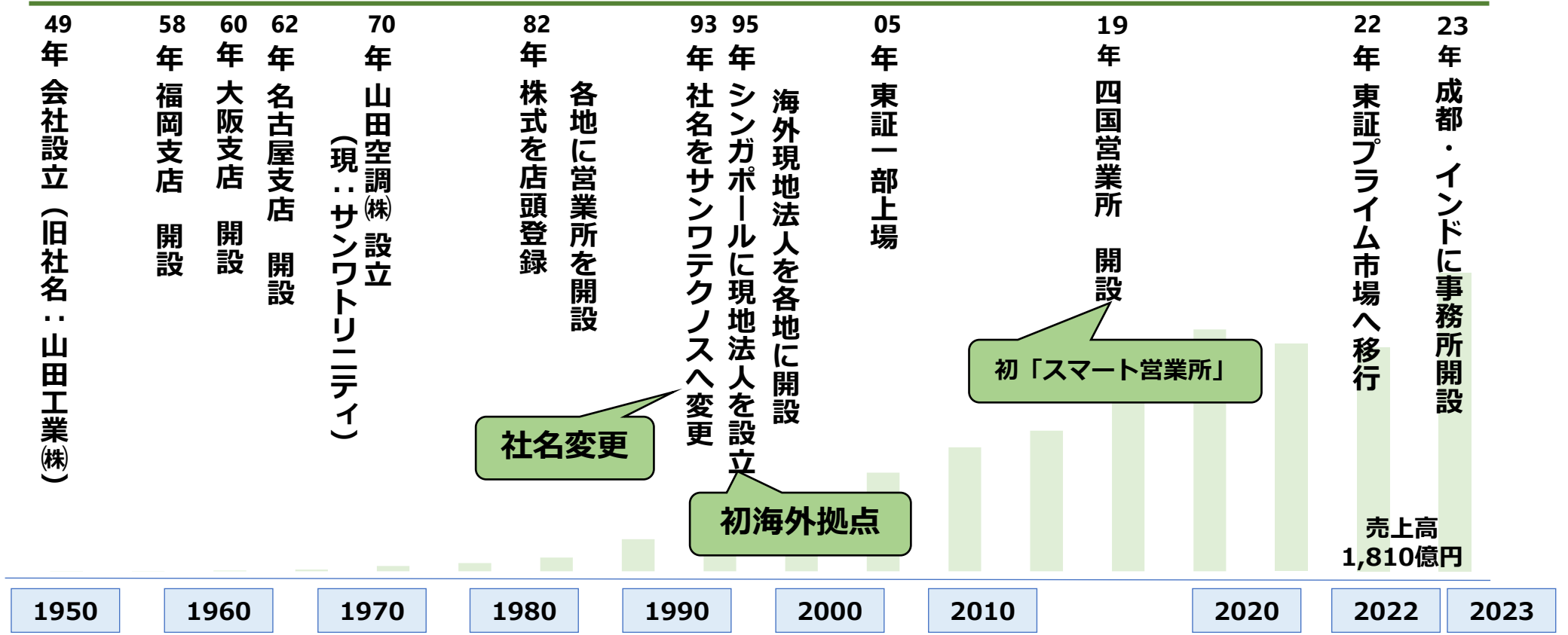
営業利益 : 76億円

当期純利益※ : 54億円

総資産 : 1,065億円

※親会社株主に帰属する当期純利益

会社案内 沿革



復興～高度成長期 1949～'60S

- 1949年会社設立。
- 安川電機と代理店契約
- 電機品の販売からのスタート

バブル経済へ '70S～'80S

- 国内産業の発展に伴い拠点を拡充
- 地域密着営業を展開
- 現在の電機・電子・機械の事業領域が確立

グローバル経済 '90S～'00S

- 1995年のシンガポール出店を皮切りに海外拠点を拡充

ICTとデジタル経済 '10S～現在

- 社内のDX化を進め、国内外での連携を強化
- お客様の調達・購買業務を代行
- スマート営業所を拡充

産業用エレクトロニクス・メカトロニクス関連の
装置・機器・部品を取扱う独立系技術商社

電機部門



モーションコントロール、機械装置システムの高付加価値化を実現するメカトロ関連ビジネス

電子部門



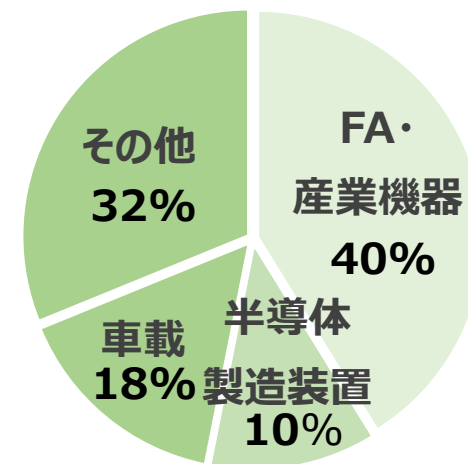
デザイン・インから製品の量産化まで、
きめ細かく対応する電子部品関連ビジネス

機械部門



ロボットや物流搬送システム、
各種検査装置などの生産設備関連ビジネス

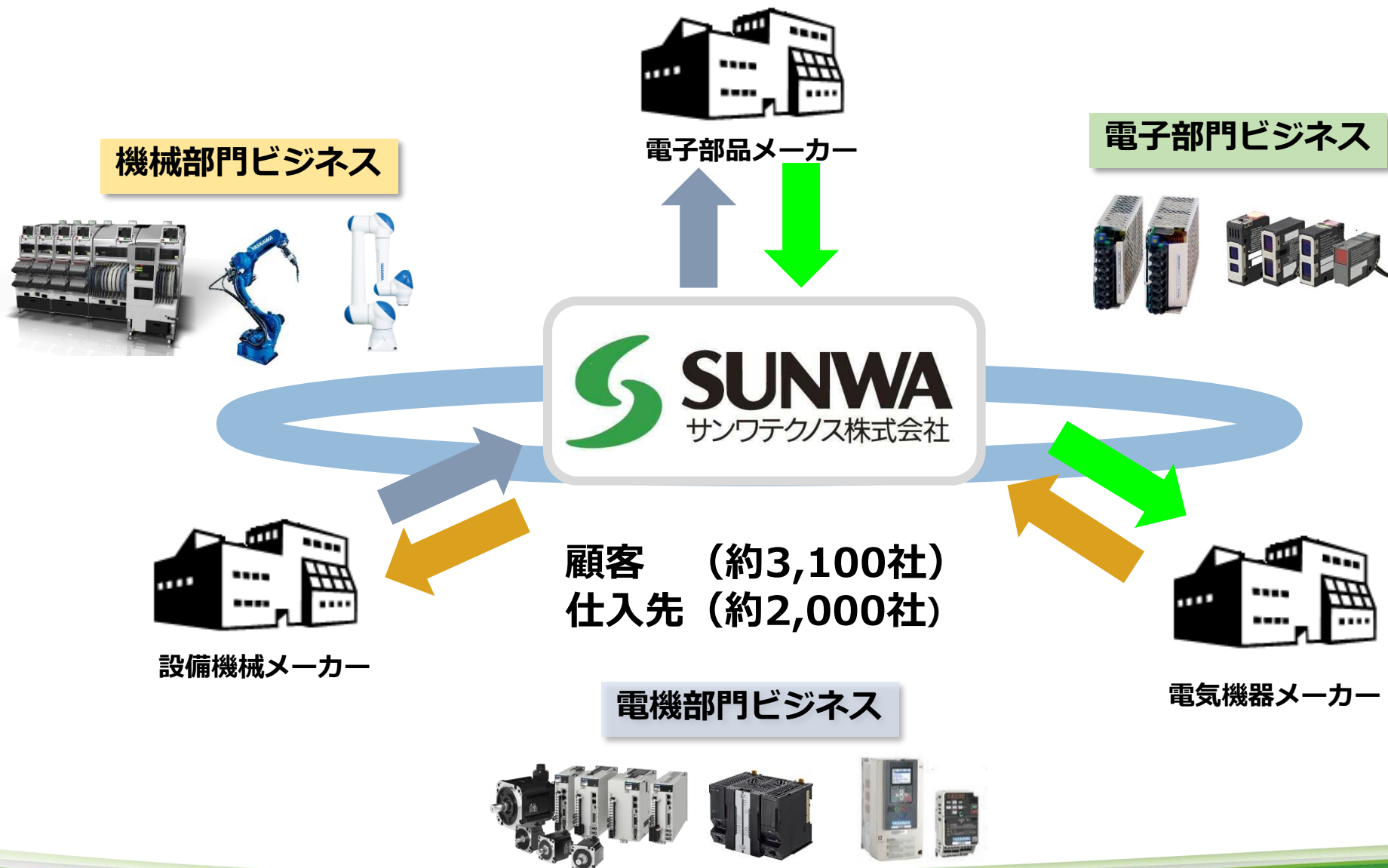
【顧客セグメント別売上高】



2024年3月期2Q

会社案内 当社の取引の特徴

- 双方向取引による密接な信頼関係と強い協力関係
- 顧客であると同時に仕入先でもある大手企業と多数取引
- 産業界の最新動向を仕入先メーカーにいち早く情報提供



会社案内（部門別売上高構成比）



■ 電機 ■ 電子 ■ 機械



機械部門主要顧客

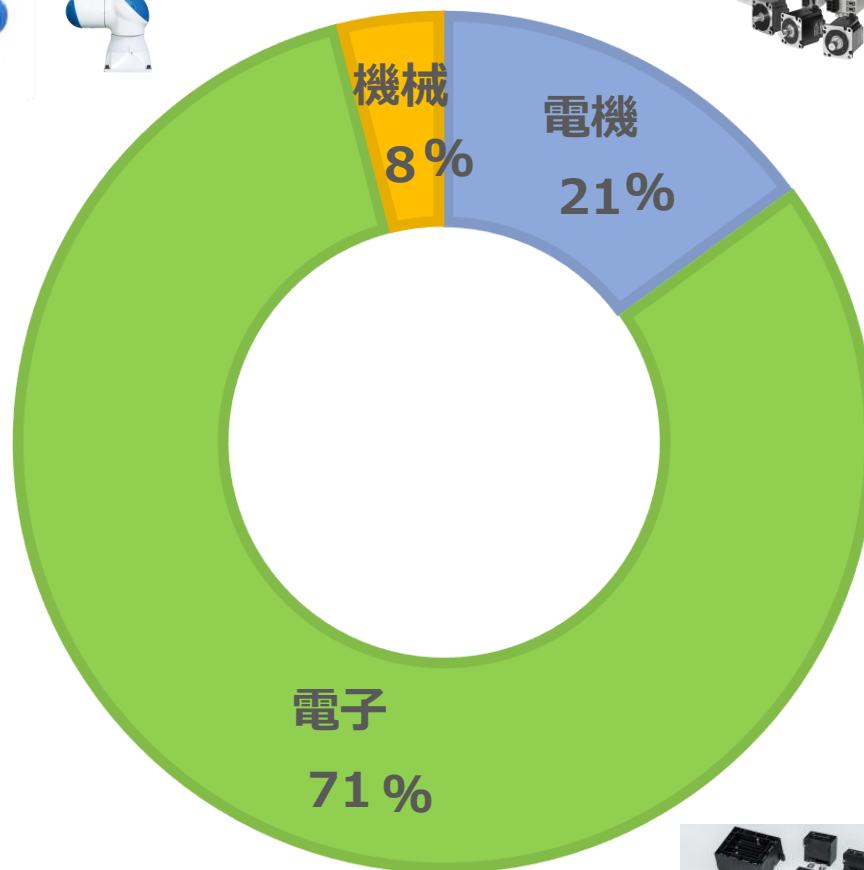
デンソーグループ
TOPPANグループ
スバルグループ
SCREENグループ
AGCグループ
ブリヂストングループ

電子部門主要顧客

デンソーグループ
安川電機グループ
三菱電機グループ
オムロングループ
富士電機グループ
FUJIグループ

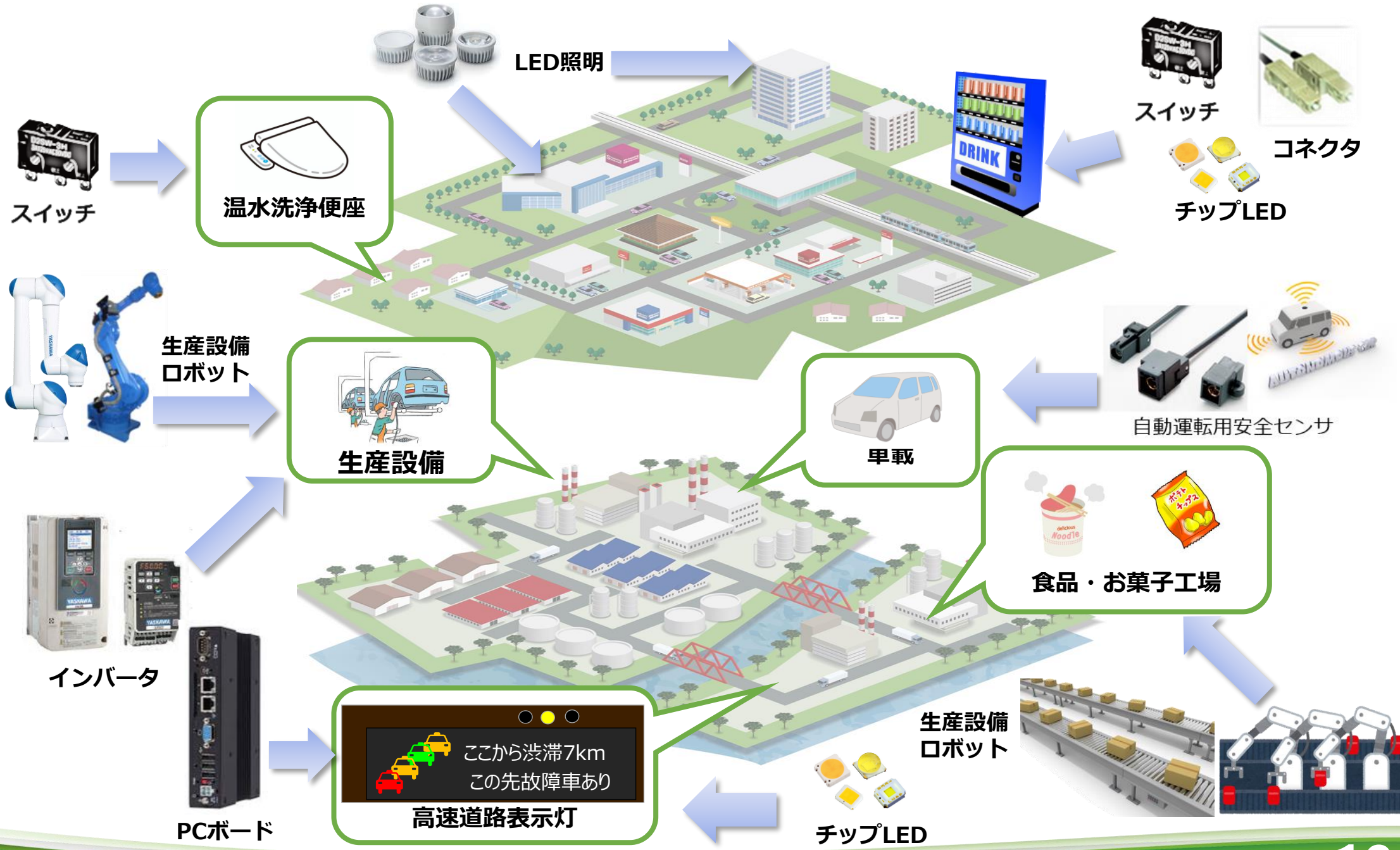
電機部門主要顧客

KOKUSAI ELECTRIC
パナソニックグループ
SCREENグループ
ニコングループ
ダイフクグループ
ヤマハ発動機グループ
デンソーグループ



(2024年度3月期2Q)

会社案内 (暮らし・社会に貢献するサンワテクノス)



会社案内（サンワグローバルネットワーク）

日本：30 拠点

海外：14社 33 拠点

ヨーロッパ 2 拠点

- ・フランクフルト
- ・リュブリャナ

アメリカ・メキシコ 4 拠点

- ・シカゴ
- ・サウスカロライナ
- ・ロサンゼルス
- ・ケレタロ

中国・香港・台湾 18 拠点

- 上海・上海メカトロセンター
- 天津
- 杭州
- 香港
- 台北
- 瀋陽
- 蘇州
- 広州
- 台中
- 大連
- 常州
- 厦門
- 台南
- 成都
- 武漢
- 深圳
- 青島

2023年3月1日
成都事務所開設

ASEAN 9 拠点

- ・ハノイ
- ・マニラ
- ・バンコク
- ・シンガポール
- ・ジャカルタ
- ・ホーチミン
- ・ベンガルール
- ・ペナン
- ・クアラルンプール

2023年9月1日
インド事務所開設

日本（国内）

サンワテクノス株式会社 全30拠点
サンワトリニティ株式会社
サンワロジスティック株式会社

* 2023年11月現在

<スマート営業所のコンセプト>

お客様の近くに存在するベストパートナーを目指し、
お客様の声を直接伺う営業パーソンがお客様の存在する各地に駐在し、
業務オペレーションは支店から遠隔支援

海外：5拠点

- 2021 パナン事務所(マレーシア)
- 2022 青島事務所
常州事務所
武漢事務所
- 2023 成都事務所

日本：6拠点

- 2019 四国営業所
- 2020 長岡営業所
- 2021 甲府営業所
金沢営業所
北九州営業所
- 2022 滋賀営業所



- 会社案内
- **2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想**
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント

業績および業績予想について（連結決算の概要）

第2四半期としては売上高・各段階利益が過去最高

(単位：百万円)

2024年3月期 第2四半期		対前年同期 増減率
売上高	88,867	5.3
営業利益	3,442	4.3
経常利益	3,700	3.5
四半期純利益 (※)	3,075	21.7
1株当たり 四半期純利益	201.75円	23.4

(単位：百万円)

2024年3月期 通期業績予想		対前期 増減率
売上高	166,500	△8.0
営業利益	5,510	△27.8
経常利益	5,860	△23.6
当期純利益 (※)	4,570	△16.8
1株当たり 当期純利益	299.74円	△15.6

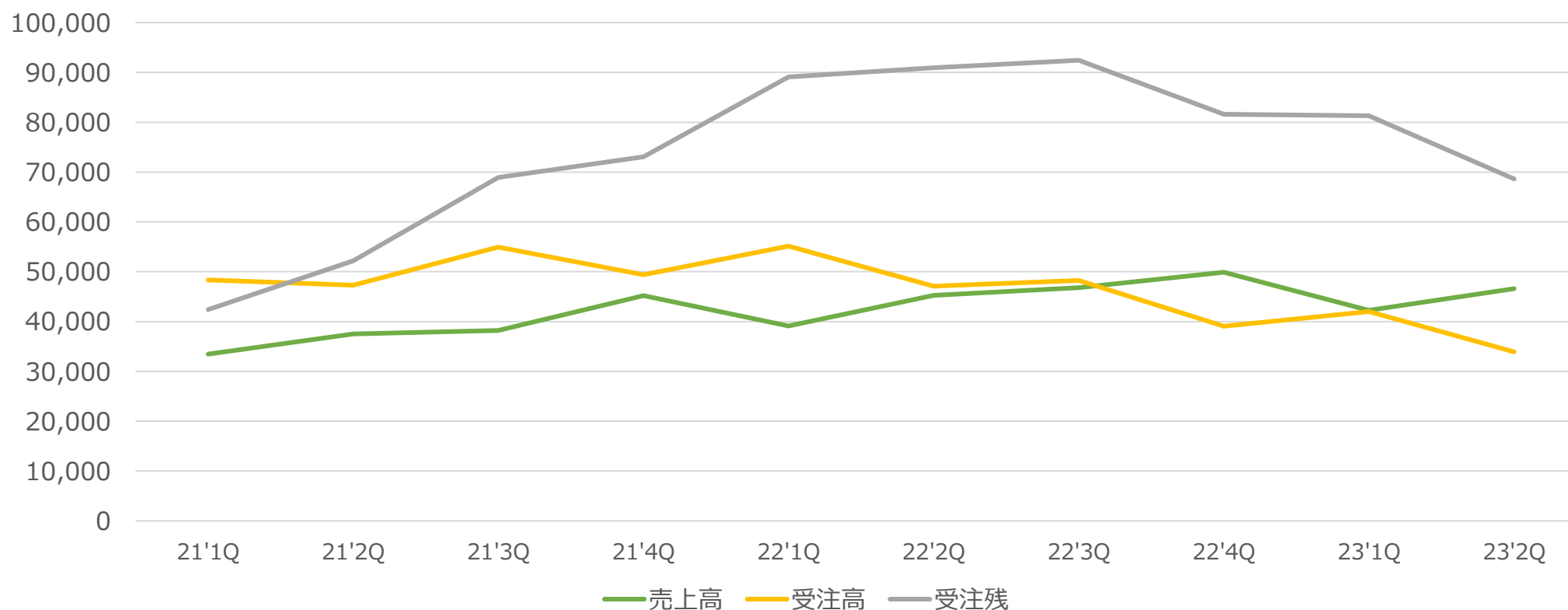
(※) 親会社株主に帰属する四半期純利益・当期純利益

2024年3月期 第2四半期 四半期別業績

● 受注高は低調だが、前年度までの受注残が売上高を押し上げ

(単位:百万円)

	21'1Q	21'2Q	21'3Q	21'4Q	22'1Q	22'2Q	22'3Q	22'4Q	23'1Q	23'2Q	前年同期 成長率(%)	直前四半期 成長率(%)
売上高	33,489	37,489	38,214	45,221	39,108	45,248	46,773	49,883	42,262	46,605	3.0	10.3
セグメント利益	974	1,134	1,198	1,496	1,341	1,958	2,121	2,209	1,693	1,749	△ 10.7	3.3
受注高	48,342	47,283	54,918	49,387	55,127	47,115	48,245	39,051	41,981	33,896	△ 28.1	△ 19.3
受注残	42,417	52,211	68,916	73,081	89,100	90,967	92,440	81,608	81,326	68,618	△ 24.6	△ 15.6



- 会社案内
- 2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント



Sun-Wa New Stage

第11次 中期経営計画
(2022年度～2024年度)

2023年度 方針（中期経営計画2年目）

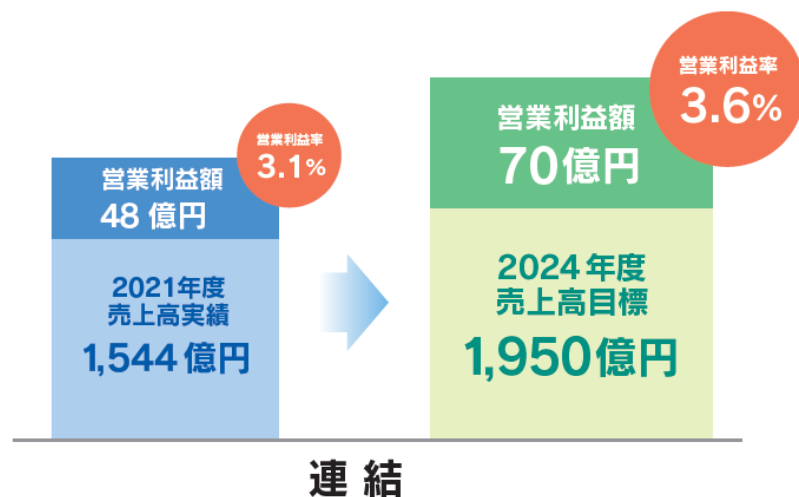
第11次 中期経営計画 経営目標<連結>

企業価値の向上

2024年度 営業利益 70 億円達成

PBR（株価純資産倍率）1.0倍超の早期実現を目指す

最重要経営指標を『売上高』から『営業利益』とする



◆ 連結

	営業利益額	営業利益率	売上高
2024年度目標	70 億円	3.6%	1,950 億円
2021年度実績	48 億円	3.1%	1,544 億円

2023年度 方針

グローバルサプライチェーンのプロフェッショナルとして
 ”つながり”と”信頼”でものづくりの未来を支える

Challenge

01

イノベーションが求められる成長分野への注力

- セグメント戦略の部店へ展開による収益力の強化
- 強みを活かした新規ビジネス創出と成長分野への投資
- P R ・ I R ・ S R 活動による企業ブランド力の向上

Challenge

02

より高付加価値な製品と新たなソリューションの提供

- 技術戦略の策定による注力分野の特定とリソースの確保
- S D X (サンワDX) の策定と推進
- グローバルサプライチェーン強靱化のためのソリューション提供

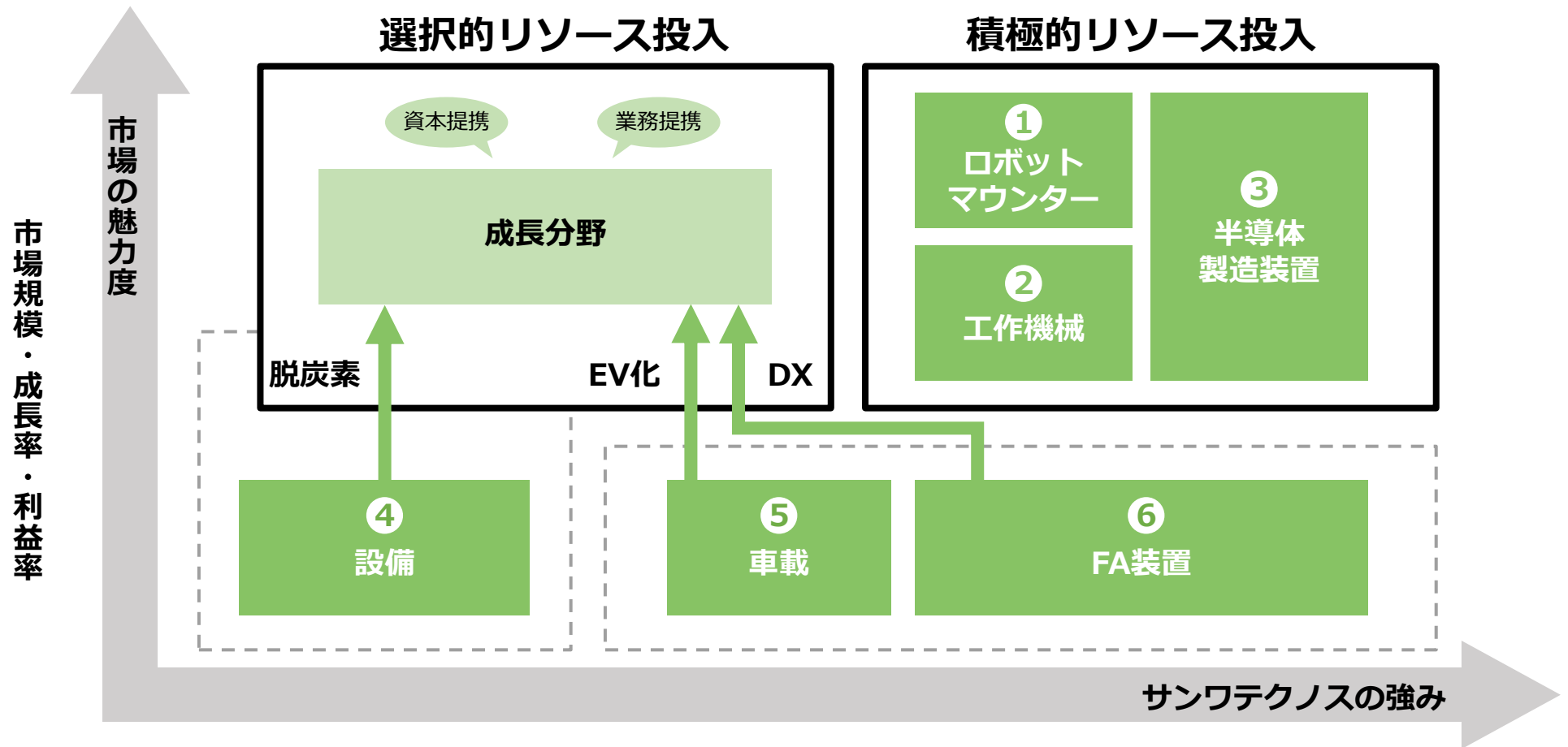
Challenge

03

サステナビリティ経営による持続可能な社会の実現に貢献

- S D A 推進による C O 2 排出量削減への貢献度の可視化
- 多様な人材育成と活躍推進のための人的資本投資の実施
- 社員エンゲージメント施策の立案、実施、効果測定

イノベーションが求められる成長分野への注力



- 1 ロボットマウンター**
- ・ 安川電機
 - ・ デンソーウェーブ
 - ・ ダイヘン
 - ・ パナソニック
 - ・ FUJI
 - ・ ヤマハ発動機
 - ・ JUKI

- 2 工作機械**
- ・ 三菱電機
 - ・ アマダ
 - ・ オークマ
 - ・ DMG森精機
 - ・ ブラザー工業
 - ・ ヤマザキマザック
 - ・ コマツNTC

- 3 半導体製造装置**
- ・ SCREEN
 - ・ KOKUSAI ELECTRIC
 - ・ ニコン
 - ・ 村田機械
 - ・ キオクシア
 - ・ ダイフク
 - ・ ASM

- 4 設備**
- ・ トヨタ自動車
 - ・ デンソー
 - ・ スバル
 - ・ AGC
 - ・ 日清食品
 - ・ 富士フイルム
 - ・ SUMCO

- 5 車載**
- ・ トヨタ自動車
 - ・ デンソー
 - ・ アドヴィックス
 - ・ 小島プレス
 - ・ 神菱

- 6 FA装置**
- ・ 安川電機
 - ・ オムロン
 - ・ 三菱電機
 - ・ 富士電機
 - ・ 山洋電気

積極的リソース投入セグメント

半
導
体
製
造
装
置



半導体が国力を上げる時代、経済安全保障の側面からも
更なる成長が期待でき、当社の強みが発揮できる重要セグメント

- 顧客と性能向上に繋がる共同テーマの獲得
- ユニット組立の提案
- 新規仕入先の開拓

マ
ロ
ウ
ボ
ツ
タ
ー



技術革新が著しい高成長分野において
当社が優位性を発揮し易いセグメント

- 顧客ごとに製品別インシェアアップ
- 周辺機器の新規開拓
- ニーズを集約し、業界に特化した製品の企画

工
作
機
械



世界のモノづくりを支える「マザーマシン」の
高性能化、自動化、デジタル化で成長が見込める注力セグメント

- 周辺機器の新規開拓
- IoT化により重要度が増すFAPCの提案
- BCP対策としてグローバルSCMを提案

2023年度上期 進捗

- ユニット組立の提案の推進と、それによる具体的引き合い・受注の獲得
- 新規仕入先商品での提案の実施と、顧客からのテーマ獲得
- 製品別インシェアアップのための重点テーマの獲得、技術課題の抽出
- PC及びネットワーク機器の商談獲得、新たな提案商材の探索
- 工程集約・自動化・省エネ機器へのソリューション&コンポーネント提案実施
- グローバル生産顧客に対する現地法人へ売込みの強化

選択的リソース投入セグメント

FA
装置



顧客層が広く製品品種が多岐にわたる基盤セグメント

- グローバルな FA コンボ業界へ注力
- 量産アプリケーションを軸とした戦略製品の創出
- デジタルツール積極活用による情報発信の強化

車
載



100年に一度の変革期を迎え、CASE などによる電装システムのニーズが高まっているセグメント

- 既存製品の横展開による新規顧客開拓
- 新規戦略製品をグローバルに開拓
- 新規取引先開拓のための組織構築

設
備



対象業界が広く、自動化やサステナビリティ対応への技術的ニーズが高まっているセグメント

- 営業とエンジニアリングが一体となった顧客への提案
- 食品業界へ注力した SI との協業
- 設備のパッケージ化と横展開で収益性向上




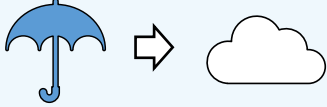


2023年度上期 進捗

- 次世代のグローバルBIGカスタマーへの拡販のための提案の実施
- 電子デバイスの営業活動の効率的展開の実施

- 主力Tier 1顧客への深耕開拓の推進
- 新規Tier 1顧客の開拓の推進
- 車載組織の強みPRと人員増強

- 付加価値のある設備パッケージの開発・販売
- 小売店舗の無人化/省人化移行に関わる、設備受注活動の推進

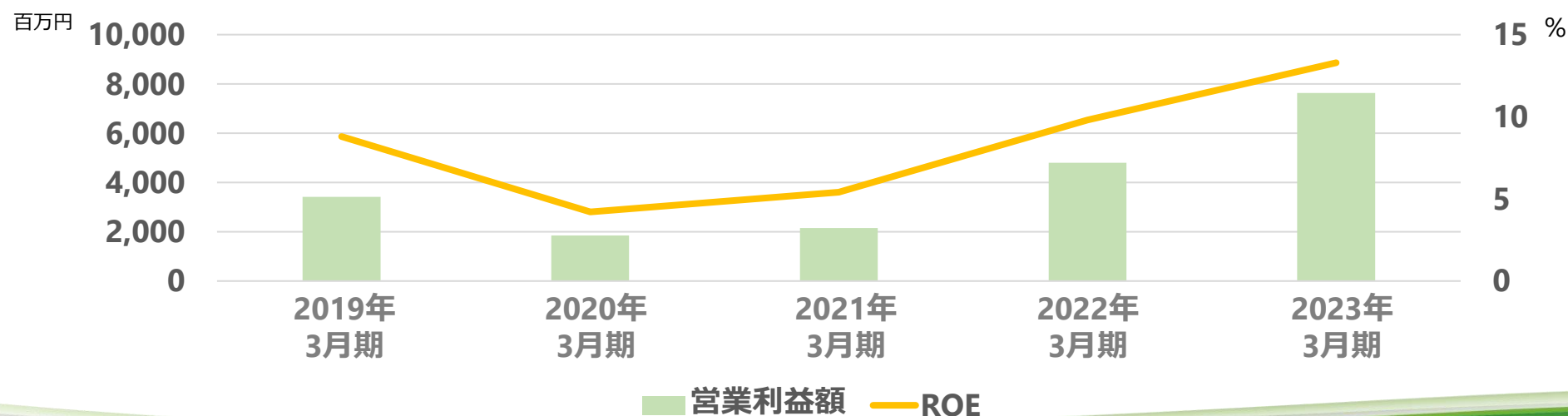
顧客セグメント別 売上総利益成長率の見込み

顧客セグメント	'21→'24 目標成長率 (3年間の年平均成長率)	'21年度→'23年度 利益成長率/年		今年度の 当社の状況
		2年間の年平均 成長率の見込み	状況判断	
半導体 製造装置	15%以上	6.4%	▲遅れ	
ロボット マウンター	10%以上	▲19.7%	▲大幅遅れ	
工作機械	10%以上	▲0.7%	▲遅れ	
FA装置	10%以上	14.0%	◎ 予定通り	
車載	10%以上	3.7%	○回復基調	
設備	10%以上	▲6.1%	▲遅れ	

- 会社案内
- 2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント

- 当社の持続的成長に向けた事業戦略・成長戦略が投資家の皆様から十分な理解を得られていない
- 株式の流動性が低い（2022年度平均：40,308株/日）
- 時価総額が小さく機関投資家の投資対象になりにくい

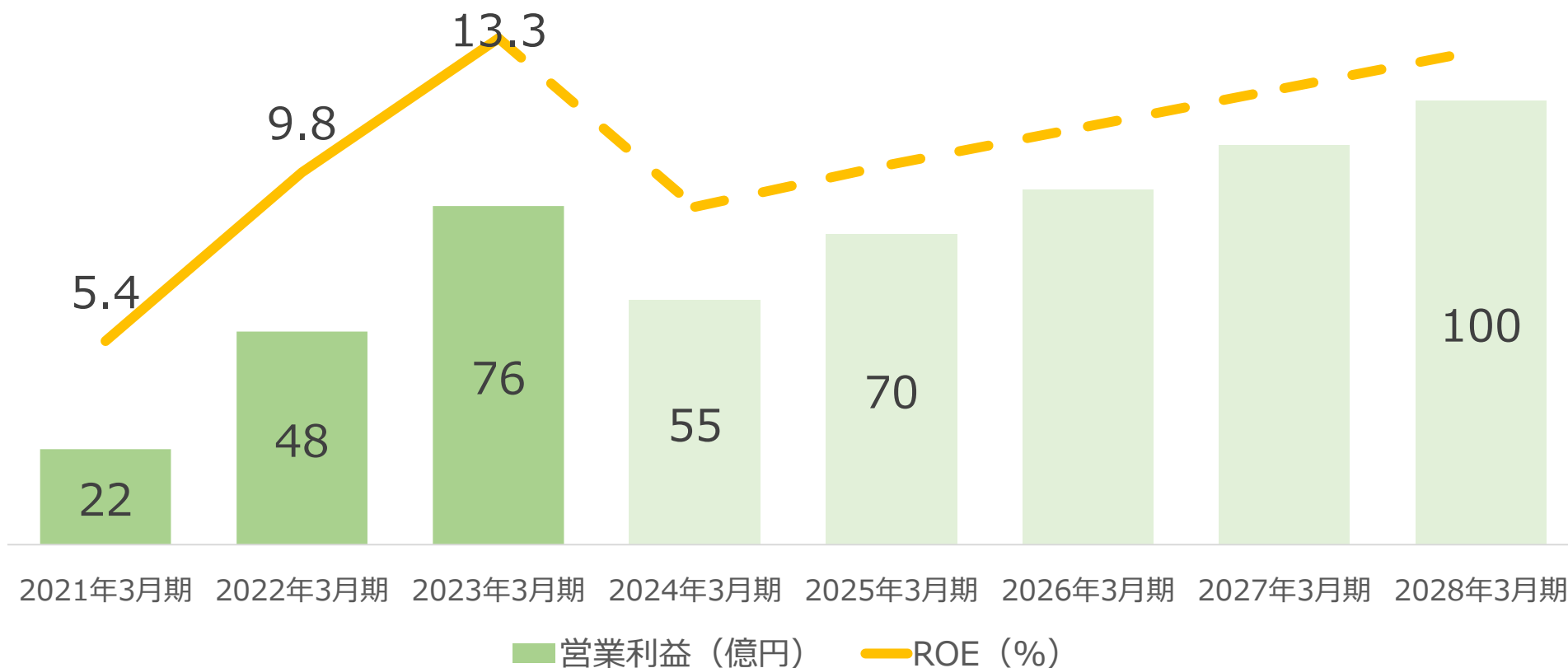
		2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
営業利益	百万円	3,410	1,846	2,152	4,804	7,630
ROE	%	8.8	4.2	5.4	9.8	13.3
1株あたり当期純利益	円	164.08	84.11	113.23	228.33	355.08
1株あたり純資産	円	1,991.19	2,010.98	2,220.42	2,462.10	2,873.36
期末株価	円	862	815	1,081	1,348	1,943
PBR	倍	0.43	0.41	0.49	0.55	0.68



企業価値向上のための施策

KGIである連結営業利益の最大化を通じて、高水準のROEの維持を目指します

(連結営業利益目標 2025年3月期：70億円、2028年3月期：100億円)



企業価値向上のための施策

施策①

中期経営計画（SNS2024）の着実な実行による収益性の向上

1. 顧客セグメント戦略と拠点営業戦略の融合による収益性の向上
2. 「イノベーション本部」を設置し以下の取り組みを実施
 - 顧客課題の解決を目指した当社独自の技術サポートとソリューション開発に投資
 - 成長事業のビジネスモデル確立と新規ビジネスを創出
 - 外部成長の手段としての資本提携・業務提携等の実施
3. 自動化・省人化ニーズを捉えるためのロボティクス営業の強化
4. 脱炭素化に向けた環境対応への投資機会の獲得
5. 米中デカップリング サプライチェーンからの脱中国対応

● 外部成長の手段としての資本提携・業務提携等の実施

株式会社 エムテック との業務提携合意に関するお知らせ

株式会社エムテック（福岡県北九州市）とサンワテクノス株式会社は、2023年10月30日に業務提携契約を締結いたしました。

産業機械分野における技術ソリューションにおける協力推進

両社協業により、ロボットソリューションパッケージ『3D Connect シリーズ』を開発、発売いたします。



SUNWA
サンワテクノス株式会社

マーケティング・ソリューション営業
商品販売・その他関連業務




Multi-Technology
MTEC 株式会社エムテック

商品開発・ソリューション開発
技術的アドバイス・その他関連業務

提携による効果

- ① 新たな商品・ソリューションの開発
- ② 新たな市場・顧客の開拓
- ③ リソースや経費の共用によるコスト削減

* 株式会社エムテックの特長

「ローテクを駆使したハイテクへの挑戦」を企業理念とし、モーション技術・制御技術・プロセス技術・ソフトカスタマイズ技術等のロボットシステム技術を高度に複合化ができる、システム開発と商品化を行う企業です。

● 外部成長の手段としての資本提携・業務提携等の実施

<10月30日付 ニュースリリース>

ロボットソリューションパッケージ『3D Connect シリーズ』
第一弾『AR^2 System』を発売

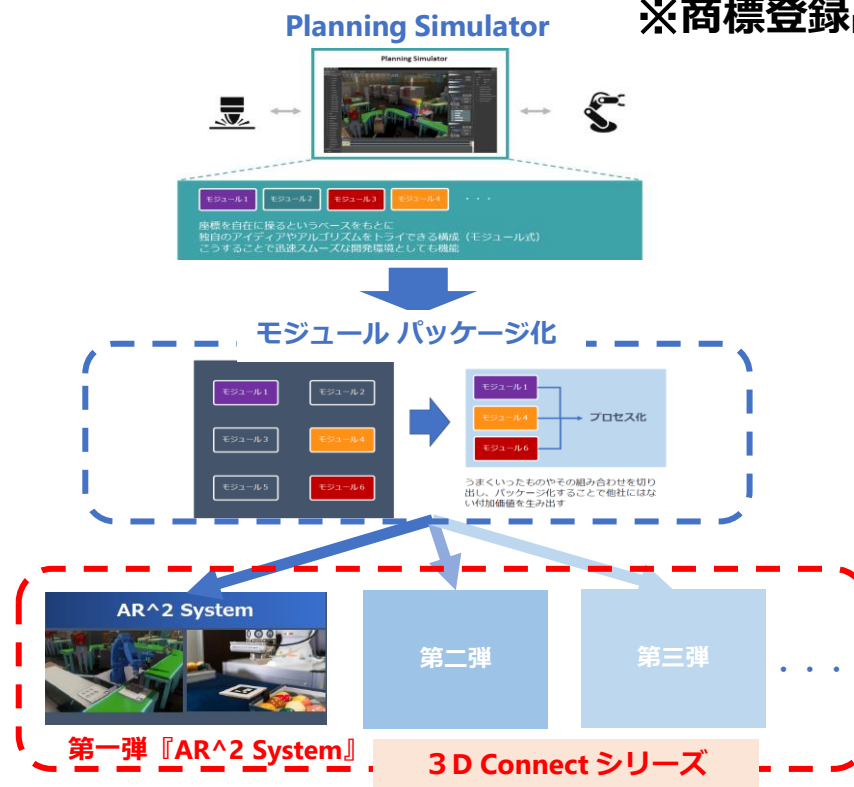
仮想空間を活用したデジタルマニュファクチャリングを実現する『3D Connect シリーズ』を開発し、その第一弾として、ARマーカーを利用したロボットソリューションパッケージ『AR^2 System<エーアール・ツー・システム>』を発売いたします。

『3D Connect シリーズ』商品コンセプト

三次元CADとロボットなどのモーションコントローラーをリアルタイムに連携操作させるプロセスシミュレーター『Planning Simulator』を使って、設計から動作に至る各種機能を持ったモジュールを組合せたソリューションパッケージです。

これにより、ロボット動作における現実と仮想空間の座標の齟齬が補正され、ものづくりにおけるデジタルマニュファクチャリングが促進されます。

※商標登録出願中



企業価値向上のための施策

施策② 株主還元の充実

- 持続的な成長と企業価値の向上のための積極的な事業展開や様々なリスクに備えるための財務健全性とのバランスを考慮したうえで、安定配当を維持しながら中長期的な視点で連結業績に応じた利益還元を行うことを基本方針とする
- 業績連動利益配分の指標として連結配当性向 25～35%を目標として実施
- 自己株式の取得についても、株主還元や資本効率向上のため、時期及び財政状況に応じて実施

施策③ IR・SR活動の拡充

- 活動拡充化のためのIR専任部署「広報・IR室」を設置（2023年4月）
- 取締役、IR担当役員による個人投資家向け会社説明会、機関投資家向け決算説明会の開催、メディア（IRラジオ、専門紙）を通しての定期的な情報発信
- 株主・投資家との間の建設的な対話への取組（IR・SRミーティング等）を活性化
- IR・SR活動で寄せられた意見等を取締役会等で共有し、経営戦略のレビュー等に活用

Sun-Wa Vision 2030
世界中の技術をつなぎ 新たな価値を創造し
豊かな社会づくりを支える

PBR1倍超の実現



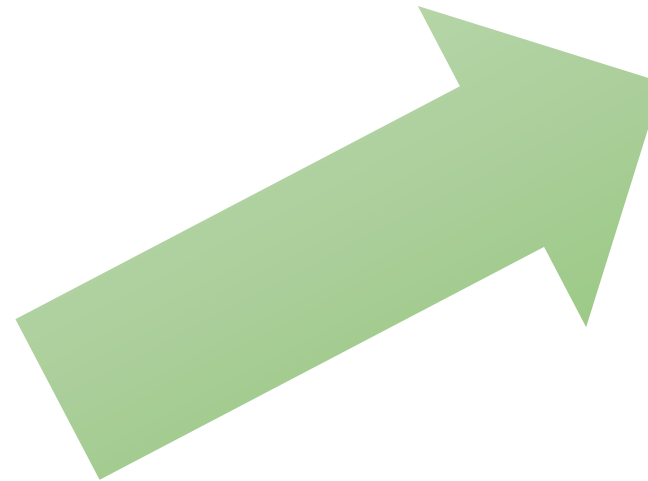
ROEの高水準での安定



営業利益の最大化



中期経営計画の達成

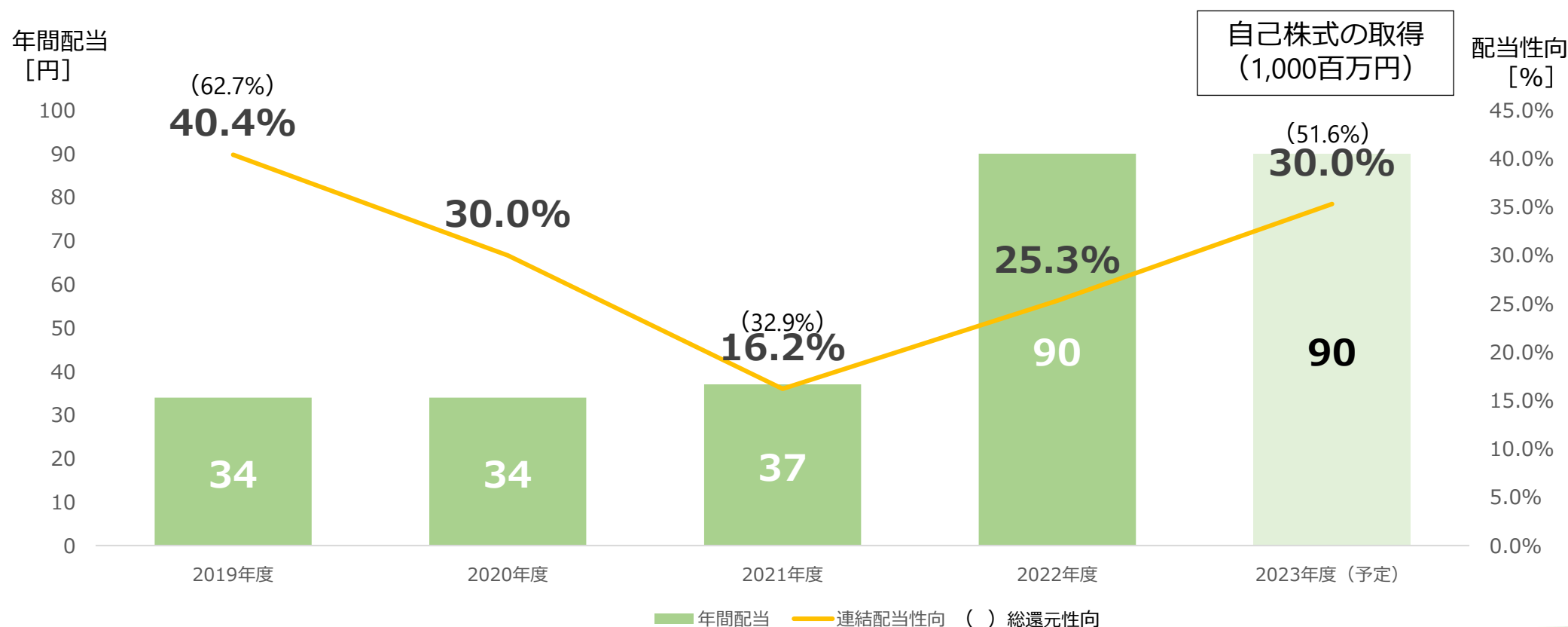


- ① 中期経営計画（SNS2024）の着実な実行による収益性の向上
- ② 株主還元の充実
- ③ IR・SR活動の拡充

- 会社案内
- 2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント

株主還元 (2023年10月30日発表より)

- 持続的な成長と企業価値の向上のための積極的な事業展開や様々なリスクに備えるための財務健全性とのバランスを考慮したうえで、安定配当を維持しながら中長期的な視点で連結業績に応じた利益還元を行う
- 業績連動利益配分の指標として連結配当性向25～35%を目標とする
- 株主還元や資本効率向上のため、時期及び財政状況に応じて機動的に自己株式の取得を実施



- 会社案内
- 2024年3月期 第2四半期決算概要・通期業績予想
(2024年3月期 第2四半期決算発表補足資料 2023年10月30日発表より)
- 中期経営計画進捗報告
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について (2023年10月30日発表より)
- 株主還元 (2023年10月30日発表より)
- サンワテクノスの
YouTubeチャンネル・X (旧Twitter) アカウント

- デジタルメディアを活用し、弊社取扱製品やサービスについてのプロモーション活動を行っています。
- お客様のビジネスに役立つ情報を発信しています。



ホーム 動画 ショート 再生リスト コミュニティ チャンネル 🔍

人気の動画 ▶ すべて再生



YouTube

<https://www.youtube.com/channel/UC24ggcZcnCeWj5IakPArW2g>

X (旧Twitter)

<https://twitter.com/mikurubesunwa>

Appendix

為替レートと為替感応度

	2023年3月期 2Q実績	2024年3月期 2Q実績	1円変動による影響額※		2024年3月期 想定為替レート
			売上高	営業利益	
USD/JPY	122.89	134.85	550百万円	60百万円	137.90

※USD/JPYが1円変動し、他の通貨も同様の比率で変動した前提

株価・株主様への利益還元について

※2023年11月2日現在

13.3%

ROE
自己資本利益率

7.7%

ROA
総資産経常利益率

1,665億円

売上高
(業績予想)

55億円

営業利益
(業績予想)

299.7円

EPS
一株あたり当期純利益 (予定)

2,248円

株価

0.74倍

PBR
株価純資産倍率

7.50倍

PER
株価収益率

3,056円

BPS
一株当たり純資産 (2Q)

4.0%

配当利回り
(予定)

30.0%

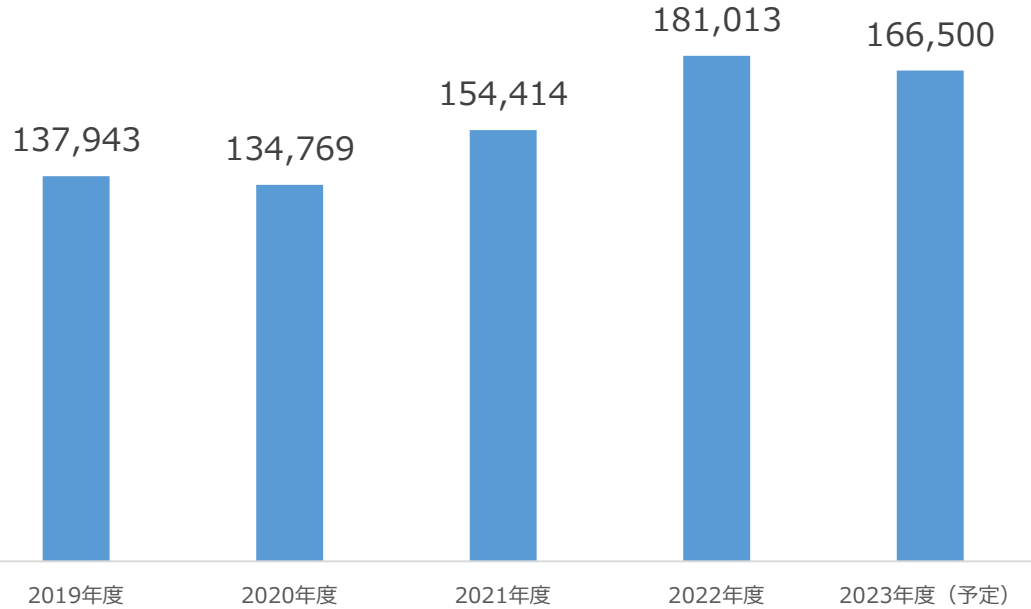
配当性向
(予定)

90円

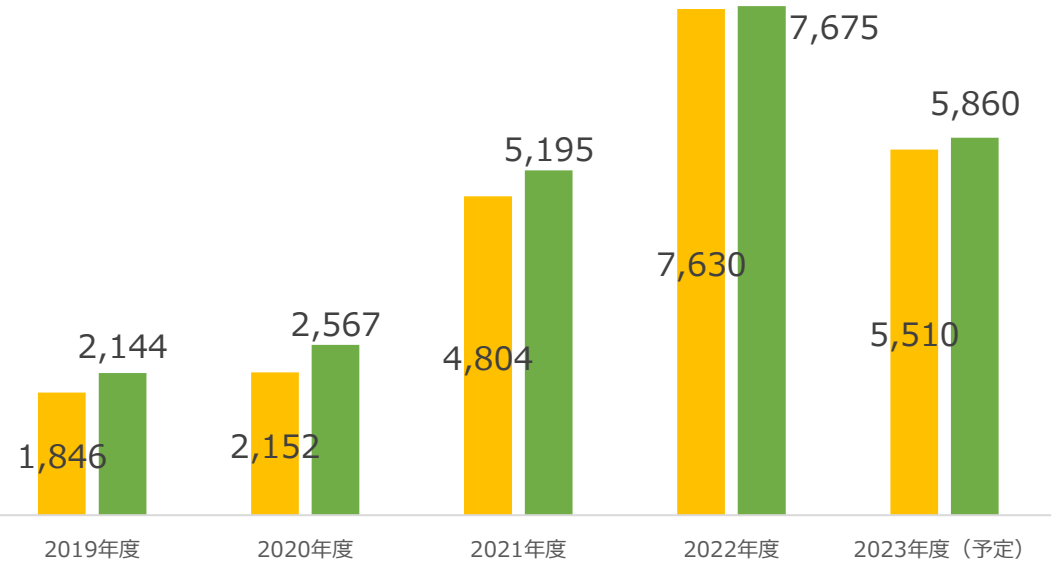
年間配当
(予定)

業績ハイライト/過去5年

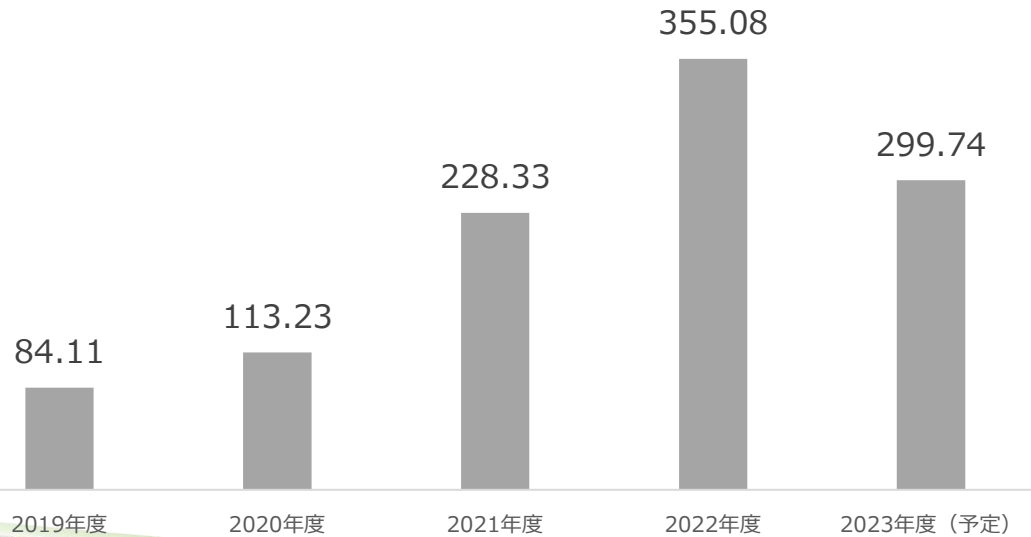
■ 売上高 (百万円)



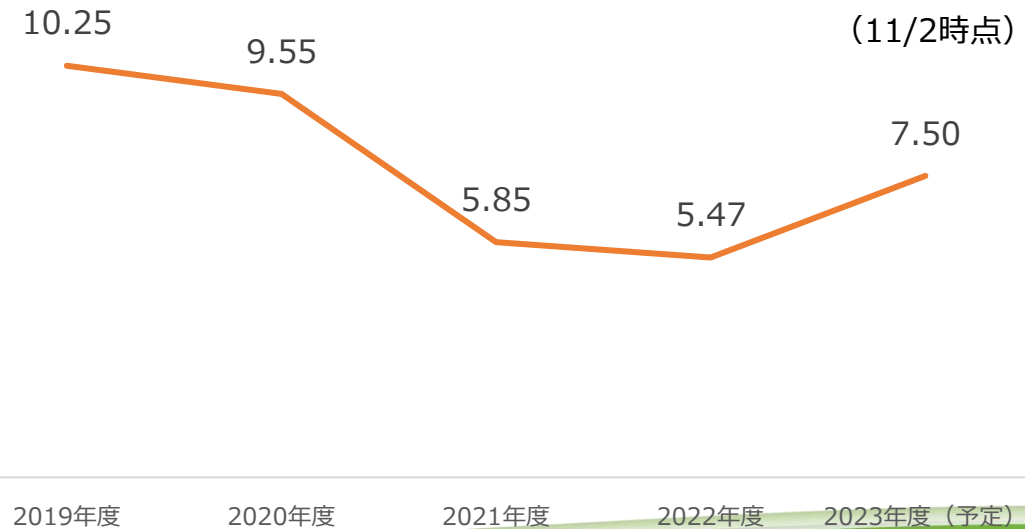
■ 営業利益 ■ 経常利益 (百万円)



■ EPS(一株あたり当期利益)

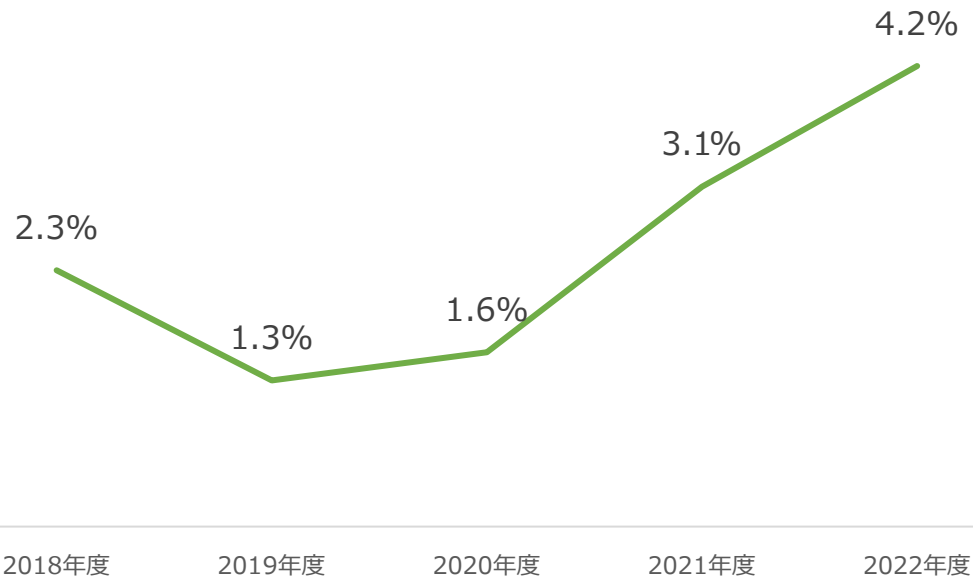


— PER(株価収益率)



業績ハイライト/過去5年

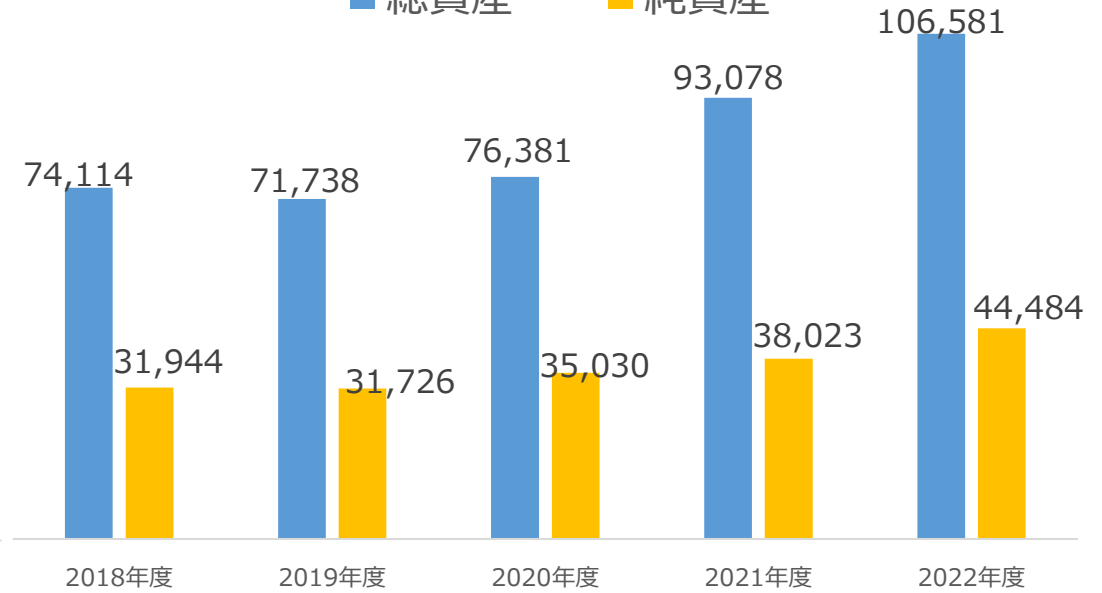
売上高営業利益率



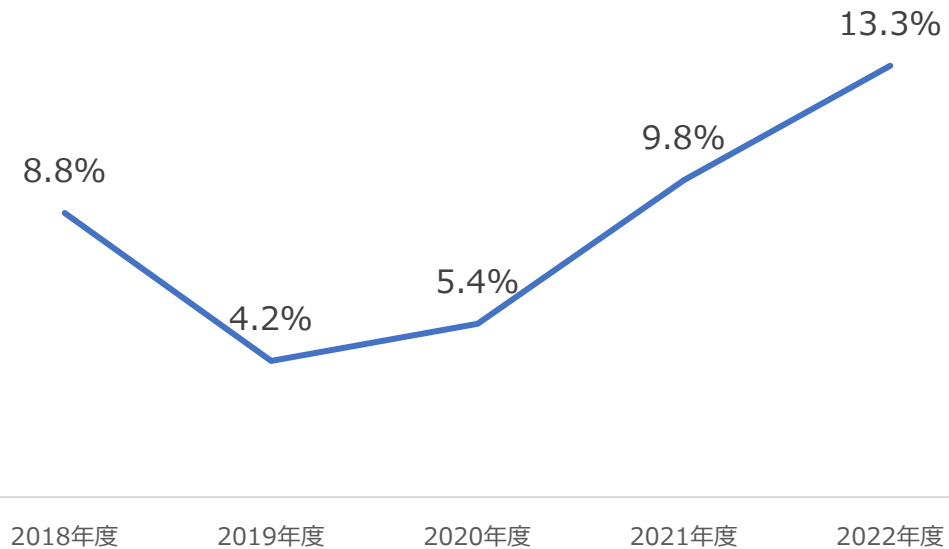
総資産

純資産

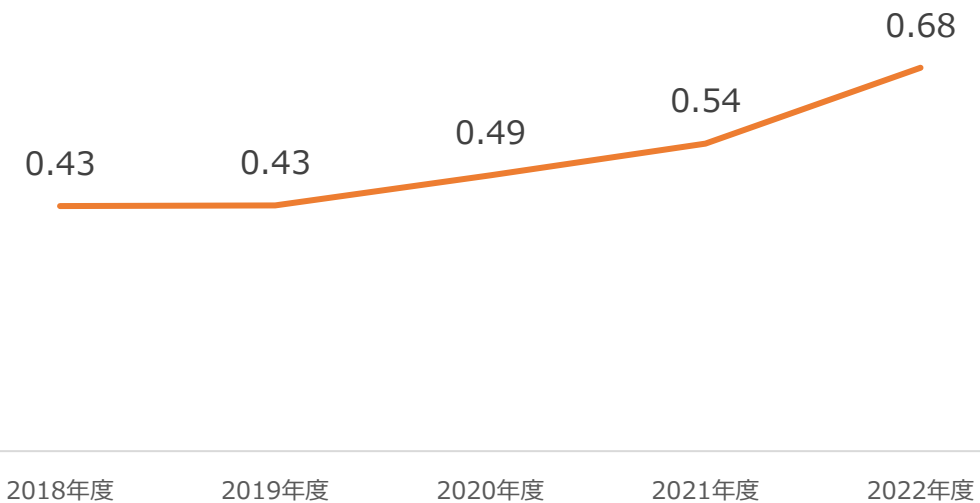
(百万円)



ROE (自己資本利益率)

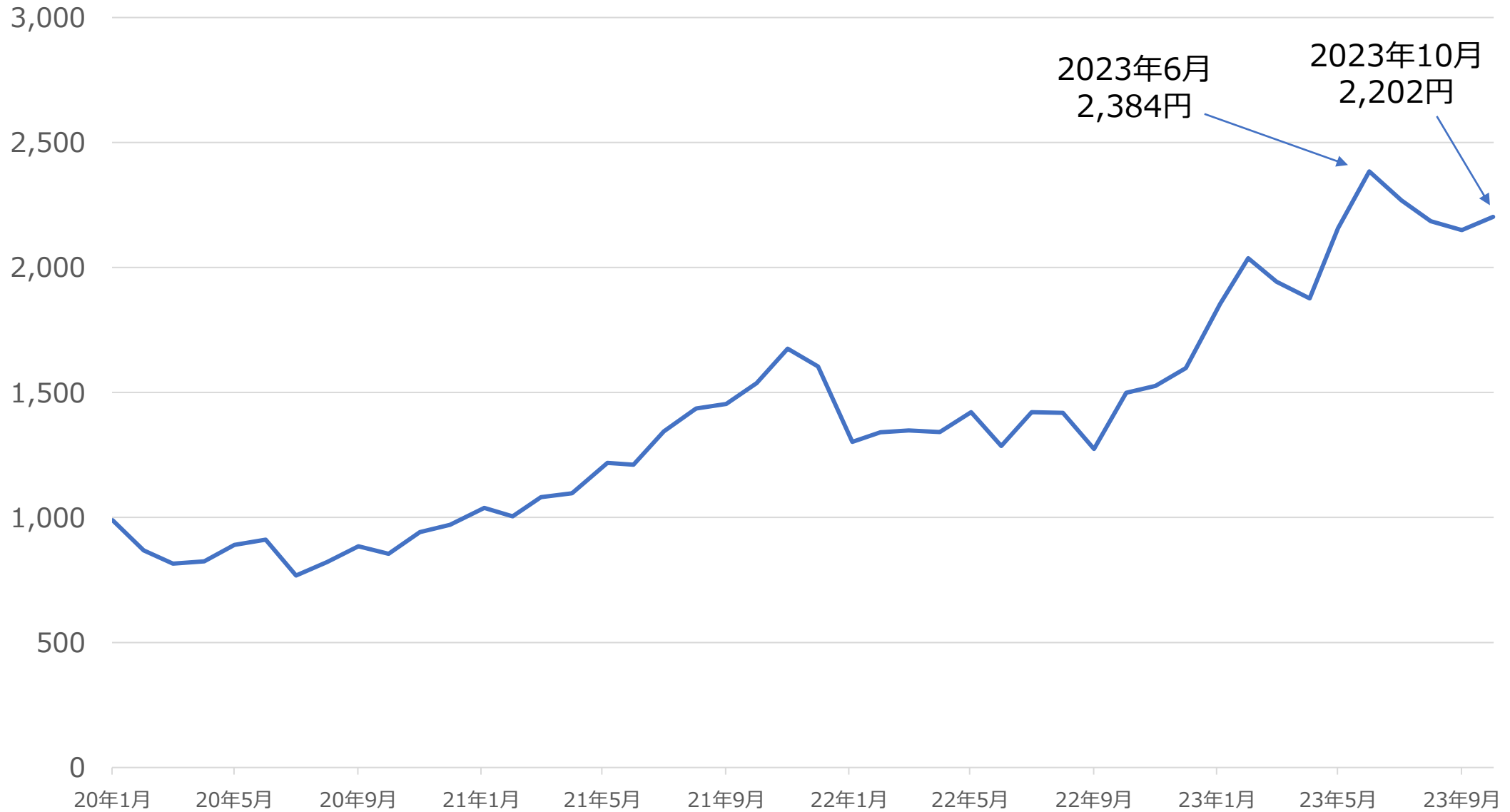


PBR (株価純資産倍率)



当社株価推移（平均値）

(単位：円)



※当社株価は一ヶ月間の平均株価

本資料取扱い上の注意点

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想見通しの記述が含まれています。
- これらの記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展等により変動することがあります。
- 従いまして、実際の業績等が記載の予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。